

1 土井利勝書状(長岡式部少輔 宛)

慶長17年(1612)5月29日付

誰の死を伝えたものか? ⇒松井康之(細川家の家老)

慶長17年1月22日死去 享年63歳



土井利勝(幕府老中)が松井興長(細川家の家老)に宛てた手紙です。
松井康之(興長の父)の死に対するお悔やみが述べられています。
差出人の土井利勝は、2代將軍徳川秀忠の側近として活躍した人です。

【釈文】

以上

未申通候処、貴札
令拜見候、仍先度
越中殿御使者へ
御言傳申入候処二、
相届候旨、得其意、
本望之至存候、誠
松井殿儀、別而
申談候ツる二、無是
非次第御座候、
御力落令推察候、
向後者相應之御
用も御座候者、
無御隔心可被仰
(折返し)
付候、次越中殿御
下節、可為御越候旨、
蒙仰候、於其儀者、
以面旁々可申承候間、
不能詳候、恐々謹言、

土井大炊助

五月廿九日 利勝(花押)

長岡式部少輔様

賞報

【大意】

先日、細川忠利殿の使者に頼んだ伝言が届いたということであれしく存じます。

松井康之殿が亡くなったことは、やむを得ないことで、お力落としのことと推察申し上げます。

私でお役に立てることがあれば、なんなりとお申し付けください。

詳しくはお会いた時に申し上げます。

五月廿九日

土井大炊助利勝

(松井興長)

長岡式部少輔様